

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---|--|------------|
| 科目名 | 情報処理演習Ⅱ | |
| 担当教員の実務経験 | | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 30 コマ | ・ 2 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | <p>情報処理演習Ⅰに引き続き、コンピュータについての知識と技能を身につけることを目標とする。特にインターネットを活用し、高度な情報環境を有効に活用できるようにする。</p> <p>インターネットの活用によって、国内のみではなく、諸外国の福祉の情報も取り入れることが可能になる。また、単なるコンピュータの技術を身につけるだけでなく、ネットワークを通して、グローバルな視野を身につけることも目標としている。</p> | |
| 授業の到達目標 | 演習を通して様々な技術や知識を獲得し、HTML言語によるWebページの作成を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| HTMLの歴史～現状について学ぶ Webサービスはいつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。 | | 1 |
| HTMLの文法について学ぶ・Webページを作成するツールの紹介等 Webページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Webページを記述する言語であるHTMLを編集するためのエディタについても調べて使ってみる。 | | 1 |
| 基礎的なHTMLの演習 HTMLの基本文法を学び、簡単なHTMLを記述してみる。 | | 1 |
| 画像の挿入、ハイパーリンクを利用したHTML記述演習 Webページにさまざまなメディアを挿入する際の記述方法を学ぶ。 また、Webの特徴でもあるハイパーリンクの仕組みを理解し、記述してみる。 | | 1 |
| その他 さまざまなHTMLタグを利用した演習 HTMLにはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。 | | 1 |
| スタイルシートの基礎・概要について学ぶ Webページのデザインは主にCSSで行う。CSSとは何かを理解する。 | | 1 |
| スタイルシートの実装について スタイルシートの記述方法を理解し、さまざまなセレクタについても学ぶ。 | | 1 |
| Webのユーザビリティについて 見やすいWeb、使いやすいWebとはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考えてみる。 | | 1 |
| Webサイトの構築について(概念) Webは1ページで完結することは少ない。具体的なサイトの構成を考え、ページデザイン・リンクの構成を検討する。 | | 1 |
| テーマを決めてHTML、CSSを利用したWebページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際にHTML、CSSを利用してサイトを構築する。 | | 1 |

| | |
|---|---------|
| HTML・CSS 作成演習(1) | 1 |
| HTML・CSS 作成演習(2) | 1 |
| 作成したWeb の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。 | 1 |
| JavaScript とは、簡単なJavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。 | 1 |
| Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。 | 1 |
| レポート作成、添削指導 | 15 |
| | 計 30 |
| | 授業単位数 2 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|---|--------|
| 科目名 | 障害者福祉論 | |
| 担当教員の実務経験 | 障害者支援施設勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 75 コマ | ・ 5 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | <p>今日、障害者福祉の考え方は、国連の人権宣言やノーマライゼーションの理念に基づいて発展してきている。本科目ではまず、障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、障害の種類多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学修する。そして、福祉現場に出たときに必要な援助方法について、障害別に事例ケースを基に紹介する。障害者福祉に関する施策は近年多くの変化を見せつつあるが、これを単に知識として理解するのではなく、実践と結びつけながら、現場で生きる理解を深める。</p> | |
| 授業の到達目標 | <p>障害者福祉の基本理念や法体系、サービス内容についての知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。</p> | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 障害者を取り巻く社会情勢 （障害者を取り巻く社会情勢：国際障害者年を中心とした国際情勢と、その影響を受けてのわが国の状況を押さえることを基本に理解する。） | 1 | |
| 障害者を取り巻く生活実態(1) （障害者の生活実態：事例より参加の次元の促進を基本に、環境因子がどのように社会生活に影響をもたらすのかを重視し理解する。） | 1 | |
| 障害者を取り巻く生活実態(2) （WHO のICF にみる障害の考え方の変化：ICF の成立経緯とその特徴を押さえる、医学モデルと生活モデルの特徴：ICIDH で指摘された医学モデルとICF の社会生活モデルの相違を理解し、全人的視点に立った支援の視点を知る。） | 1 | |
| 障害者にかかわる法体系(1) （障害者基本法、身体障害者福祉法：三障害を包括した障害者基本法の概要と、身体障害者福祉法の概要を知る。） | 1 | |
| 障害者にかかわる法体系(2) （知的障害者福祉法、精神保健福祉法：それぞれの法律の概要を把握する。） | 1 | |
| 障害者にかかわる法体系(3) （発達障害者支援法、障害者虐待防止法、医療観察法、バリアフリー新法等：比較的新しいこれらの法律の特徴を理解し、今日の障害者の社会参加との関わりを理解する。） | 1 | |
| 障害者自立支援制度(1) （理念・考え方、自立支援給付：障害者自立支援法の成立経緯を理解し、自立支援給付の具体的内容を知る。） | 1 | |
| 障害者自立支援制度(2) （支給決定のプロセス、自立支援医療費、舗装具等：それぞれの具体的内容に踏み込んで理解する。） | 1 | |
| 障害者自立支援制度(3) （地域生活支援事業、障害福祉計画、苦情解決、審査請求等：それぞれの具体的内容に踏み込んで理解する。） | 1 | |
| 障害児に対する支援(1) （施策の歴史：戦後の児童福祉法における障害児の法的位置づけから始まり、発達障害者支援法までの障害児に対する制度施策の経過を理解する。） | 1 | |

| | |
|---|---------|
| 障害児に対する支援(2) (最近の動向:障害児と児童相談所や保健所等の関わり、発達障害者支援法との関わりを含め動向を理解する。) | 1 |
| 組織・機関の役割 (行政機関の役割、その他の事業者等の役割。) | 1 |
| 専門職の役割 (専門職の価値と倫理、主な専門職員と役割:障害者福祉にかかわる専門職とかれらの職業倫理を理解する。) | 1 |
| 他職種連携 (連携の実際:保健・医療福祉の連携、チームケアの実際を理解する。) | 1 |
| ネットワーキング (ネットワーキングの動向:地域自立生活支援の視点から、障害児・者に対するネットワーキングの実際を知る。) | 1 |
| レポート作成、添削指導 | 60 |
| | 計 75 |
| | 授業単位数 5 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|---|------|
| 科目名 | 介護概論 | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 75 コマ | 5 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 高齢化が進む我が国において、介護を必要とする人々は増加の一途を辿っている。本科目では、介護の概念、対象、理念などの総論を学んだ上で、介護予防、自立に向けた介護、認知症ケア、終末期ケアなどの概要について理解を深める。 | |
| 授業の到達目標 | 介護の概念や意義を理解し、具体的な介護過程を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 介護の概念と範囲 （社会福祉士及び介護福祉士法 求められる介護福祉士像 身体介護 家事援助 生活支援） | 1 | |
| 介護の理念 （自立支援 エンパワメント ADL QOL 自己決定 尊厳 安楽・安寧 ノーマライゼーション） | 1 | |
| 介護の対象 （マズローの欲求段階説 国際生活機能分類(ICF)） | 1 | |
| 介護過程 （介護サービス計画 介護計画 ケアマネジメント アセスメント ニーズ） | 1 | |
| 介護予防 （要介護状態の原因 健康寿命 廃用症候群） | 1 | |
| 自立に向けた介護 （残存機能 残存能力 自立生活運動） | 1 | |
| 家事における自立支援 （生活行為 衣食住） | 1 | |
| 身支度・移動・睡眠の介護 （麻痺 健側 患側 脱健着患 ボディメカニクス レム睡眠 ノンレム睡眠） | 1 | |
| 食事・口腔衛生の介護 （咀嚼 嚥下 誤嚥 誤嚥性肺炎） | 1 | |
| 入浴・清潔・排泄の介護 （室温 湯温 羞恥心 失禁の種類） | 1 | |
| 認知症ケア （アルツハイマー 脳血管性認知症 中核症状 周辺症状 BPSD 受容 虐待） | 1 | |
| 終末期ケア （デスエデュケーション グリーフケア チームケア） | 1 | |
| 住環境 （バリアフリー ユニバーサルデザイン 住宅改修 福祉用具） | 1 | |
| 医療的ケア （喀痰吸引 医療行為 医療的ケア） | 1 | |

| | |
|--|---------|
| 介護における専門職の役割と連携 (社会福祉士 介護福祉士 介護支援専門員 精神保健福祉士 医師 歯科医師 看護師 保健師 薬剤師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 管理栄養士 歯科衛生士 チームアプローチ) | 1 |
| レポート作成、添削指導 | 60 |
| | 計 75 |
| | 授業単位数 5 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|--|------------|
| 科目名 | 社会調査法 | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護施設勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 75 コマ | ・ 5 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 社会調査は、社会的事実を認識するための方法であり、社会福祉士が行う相談援助活動を支え、基礎づけるものである。本科目では、この社会調査の基本的性格を考察し、その代表的な調査技法である統計調査法と事例調査法の基本原理と方法、手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析の方法、質問紙、調査票の作成の手順、観察や面接の技法といった具体的な方法論も学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | 各調査方法の方法と特徴について理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』中央法規。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 社会調査の歴史(1:ヨーロッパ) (重要人物の業績とその特徴: ハワード、ル・プレー、ブース、ラウンリー 等) | 1 | |
| 社会調査の歴史(2: 日本) (重要な人物や事項とその特徴: 横山源之助、国勢調査の開始、戸田貞三 等) | 1 | |
| 調査の手順 (アイデアから研究テーマへ: プレインストーミング、KJ法の概要、先行研究の検討: インターネット等を利用した先行研究の探し方、一般仮説と作業仮説のたて方) | 1 | |
| 社会調査の種類 (量的調査と質的調査の概要: 両調査の特徴を各所方法の長所と短所を中心に概観する) | 1 | |
| 量的調査と質的調査の比較 (とくに両者の特質の比較: それぞれの特質を表にし比較する、専門用語の意味: 全数調査・標本調査・母集団・サンプル・サンプリング等、標本抽出法: 有意抽出と無作為抽出とそれらの具体的抽出方法) | 1 | |
| 量的調査(1) (調査の手順概要: 調査の企画から報告書の作成までの手順の概要、依頼文書の作り方: 調査を依頼する施設長等への依頼文書の作り方) | 1 | |
| 量的調査(2) (質問紙の作成、ワーディングの注意点: 威光暗示効果・キャリーオーバー効果・ダブルバーレル質問 等) | 1 | |
| 量的調査(3) (標本数と標本誤差、平均値、中央値、偏差、分散、標準偏差などの概要: それぞれの用語の意味を理解する) | 1 | |
| 量的調査(4) (量的変数間の関連性: 代表的なものを理解する、度数分布図のいろいろ: 棒図表・ヒストグラム・度数多角形・パイ図表・帯図表の特徴を知る、信頼性と妥当性・横断調査と縦断調査・クロス集計の意味を理解する) | 1 | |
| 質的調査(1) (質的調査の特徴: 量的調査との比較により理解する、質的調査の種類: 観察法と面接法、KJ法とグラウンデッドセオリー法の概要) | 1 | |
| 質的調査(2) (調査手法: 観察法と面接法および記録の種類について具体的な内容の理解) | 1 | |

| | |
|--|---------|
| 質的調査(3) (質的調査のデータ分析:KJ法やグラウンデッドセオリー法の具体的な内容の理解) | 1 |
| 社会調査における倫理 (社会調査士倫理綱領や個人情報保護法等から、社会調査に必要な倫理を知る) | 1 |
| 報告書のまとめ方(1) (報告書と論文の特性比較、プレゼンテーションの方法、報告書や論文の一般的な構成を知る) | 1 |
| 報告書のまとめ方(2) (報告書等の作成に必要な、項目の数字のつけ方の基本、引用文献・参考文献の書き方を知る) | 1 |
| レポート作成、添削指導 | 60 |
| | 計 75 |
| | 授業単位数 5 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|--|------------|
| 科目名 | 児童・家庭福祉論 | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護施設勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 75 コマ ・ 5 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | <p>少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。</p> <p>このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、少子高齢社会と次世代育支援、現代社会と子ども家庭の問題、子ども家庭福祉の理念と権利保障、子ども家庭福祉の法体系と実施体制、子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と援助活動などについて学修する。</p> | |
| 授業の到達目標 | 子ども家庭福祉に関わる法制度やサービスについて理解し、レポートおよび科目試験合格を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 第1章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、 <u>少子高齢化社会と次世代育成支援の視点</u> から学ぶ。さらに、 <u>子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状</u> について学修する。 | 1 |
| | 第1章「現代社会と子ども家庭」：現代社会の <u>子どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズ</u> について取り上げ、それに対する <u>支援の基本的視点</u> について理解を深める。 | 1 |
| | 第2章「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の <u>原理、理念、権利保障</u> について学ぶ。まず、「子ども」という存在の意味、「子ども」観などを通して、「子ども」の意義を理解する。 | 1 |
| | 第2章「子ども家庭福祉とは」：次に、 <u>子ども家庭福祉の定義</u> を学び、児童福祉を实践する上での <u>原理、理念</u> を学修する。さらに、今日に至るまでの <u>児童福祉の歴史</u> について理解を深める。 | 1 |
| | 第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：児童福祉法をはじめとする <u>児童福祉六法</u> や「 <u>児童虐待の防止等に関する法律</u> 」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要を学ぶ。 | 1 |
| | 第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：子ども家庭福祉行政の <u>実施主体と主な実施機関、児童福祉施設</u> など、 <u>子ども家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源</u> などを学ぶ。また、 <u>専門職、苦情処理</u> について学修する。 | 1 |
| | 第4章「子ども家庭にかかわる福祉・保障」：（母子保健）母子保健の目的、歩み、 <u>母子保健法、母子保健施策</u> の現状、今後の課題等について学修する。 | 1 |
| | （障害・難病のある子どもと家庭への支援） <u>障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子ども</u> の支援に関する制度について学修する。 | 1 |
| | （児童健全育成）：時代の流れを追いながら <u>児童健全育成施策の目的と内容</u> を学び、 <u>児童健全育成施策の現状</u> や今後の課題について学修する。 | 1 |
| | （保育）：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など <u>保育制度の概要</u> について学修する。また、 <u>変化の激しい保育施策の現状</u> について学ぶ。さらに、 <u>待機児童問題</u> など今後の課題について理解を深める。 | 1 |
| | （子育て支援）：児童育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、 <u>子育て支援施策の動向</u> について学修する。 | 1 |
| | （ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス）： <u>母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要</u> や近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。 | 1 |

| | |
|--|---------|
| (非行児童・情緒障害児への支援):非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題などについて学修する。 | 1 |
| (児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉):児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待対策の課題、女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスの対応などについて学ぶ。 | 1 |
| 第5章「子ども家庭への援助活動」:子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべきソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学修する。 | 1 |
| レポート作成、添削指導 | 60 |
| | 計 75 |
| | 授業単位数 5 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---|---|------|
| 科目名 | 社会保障論 I | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護施設勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 75 コマ | 5 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | <p>本科目では、社会保障制度全体についてまなく概説した上で、今後社会保障制度が対応していかなければならない問題は何かを検討する。年金、医療、介護保険など各制度については、制度の詳細についても学修する。そのことにより、社会福祉の現場で働く場合に必要となる、社会保障に関する専門的かつ正確な知識を習得することになる。</p> <p>社会保障論 I ではこのうち、社会保障の体系や機能、財政に加えて、具体的な制度としては年金・雇用・労災保険を中心に学修する。</p> | |
| 授業の到達目標 | 様々な社会保障制度について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 喜多村悦史『「社会保障論」テキスト』東京福祉大学出版会。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| <p>社会保障制度の体系・機能・方法(テキスト第1 週)</p> <p>社会保障制度は、1950 年の「社会保障制度に関する勧告」のなかで、どのように定義されているか。また、日本では社会保障制度として、どのような制度が含まれているか。社会保障の機能としては、所得再分配機能や、生活と経済の安定機能などが挙げられる。</p> | | 1 |
| <p>社会保障給付の方法(テキスト第1 週)</p> <p>社会保障制度には、社会保険制度や公的扶助制度などが含まれるが、仕組みや財源、機能にどのような違いがあるか。児童手当等の社会手当は、社会保険と公的扶助の中間的な位置づけにある</p> | | 1 |
| <p>社会保障制度の財源(テキスト第2 週)</p> <p>国立社会保障・人口問題研究所が毎年発表している「社会保障費用統計」の内容について理解する。社会支出に加えて、社会保障給付費については、部門別、機能別の状況と、これまでの推移についても理解する必要がある。財源については、社会保険料と公費が中心であるが、近年の変化も見ておく必要がある。</p> | | 1 |
| <p>国際的な社会保障の流れ(テキスト第4 週)</p> <p>イギリスの救貧法や、ドイツの宰相ビスマルクによる社会保険などを経て、先進諸国で社会保障制度が創設されてきた。社会保障という言葉が世界として初めて使われた法律として、アメリカ社会保障法がある。第二次世界大戦後の社会保障計画としては、ベヴァリッジ報告が有名である。</p> | | 1 |
| <p>日本の社会保障の発展(テキスト第4 週)</p> <p>特に、各種の社会保険制度がどのような経緯で作られていったか。国民皆保険・皆年金、「福祉元年」の内容は必ず押さえておきたい。また、1980 年代の制度改正はどのような目的があったと考えられるか。近年は、社会保障・税一体改革も行われている。</p> | | 1 |
| <p>年金保険制度の概要(テキスト第5 週)</p> <p>1 階部分、2 階部分、3 階部分には、それぞれどのような制度が含まれているか。また、スライドとは何かについてもここで理解しておきたい。</p> | | 1 |
| <p>年金保険制度の沿革(テキスト第5 週)</p> <p>国民皆年金の実現とは、どのような内容であったか。また、1980 年代の基礎年金制度の実施は何を目的としていたか。今後の年金制度を考える上では、2004(平成16)年の改革が重要である。</p> | | 1 |
| <p>国民年金(基礎年金)制度の保険者・被保険者と費用負担(テキスト第6 週)</p> <p>国民年金の被保険者は、大きく分けて3 つに分かれており、保険料の負担方法もそれぞれ異なる。第一号被保険者には、保険料の免除や猶予となる仕組みもあり複雑である。</p> | | 1 |

| | |
|---|---------|
| <p>国民年金(基礎年金)制度の保険給付(テキスト第6週)</p> <p>基礎年金には老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金がある。受給要件や、給付の内容について押さえておく必要がある。年金額の計算は、老齢基礎年金の金額がベースとなっている。加えて、第1号被保険者には独自の給付が存在する。</p> | 1 |
| <p>厚生年金保険の保険者・被保険者と費用負担(テキスト第7週)</p> <p>厚生年金の被保険者は、国民年金にも第2号被保険者として、同時に加入することになる。保険料は定率負担であるが、上限があり、労使折半で拠出する。また、被保険者となる条件についても、理解しておきたい。</p> | 1 |
| <p>厚生年金保険の保険給付(テキスト第7週)</p> <p>年金給付には老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金があり、基礎年金とは異なり報酬比例の年金であることに注意が必要である。また、就労しながら老齢厚生年金を受給している場合は、在職老齢年金の対象となることがある。また、同じ給付事由の年金であっても、基礎年金と厚生年金では対象範囲の違いがあることも理解しておきたい。</p> | 1 |
| <p>旧共済年金と被用者年金一元化(テキスト第7週)</p> <p>以前は国家公務員、地方公務員、私立学校教職員は、共済年金に加入していたが、2015年10月から被用者年金一元化が実施された。</p> | 1 |
| <p>雇用保険(テキスト第12週)</p> <p>雇用保険の中心的な給付は、失業時の求職者給付である。基本手当は、給付条件や給付額、給付日数等詳しく見ておく必要がある。また、雇用保険では、頻繁に給付内容の改正が続いている。特に、教育訓練給付や育児や介護等を対象とした雇用継続給付については詳しく見ておきたい。</p> | 1 |
| <p>労災保険(テキスト第13週)</p> <p>労災保険と雇用保険では、加入対象が異なる。また、労災保険では保険料に特徴があり、それは労災保険の目的を反映したものととなっている。給付範囲も幅広く、特別給付金等の制度もある。医療保険や年金保険との棲み分けについても、把握しておきたい。</p> | 1 |
| <p>保険の意義と企業年金(テキスト第15週)</p> <p>保険の原則には、収支相等の原則や、給付反対給付均等の原則があるが、社会保険ではどうなっているか。企業年金には、厚生年金基金、確定給付企業年金、確定拠出年金がある。</p> | 1 |
| レポート作成、添削指導 | 15 |
| | 計 75 |
| | 授業単位数 5 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|----------------------------|--|------|
| 科目名 | 介護職員資格講座（医療的ケア） | |
| 担当教員の実務経験 | 福祉施設看護師経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科 2年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 16 コマ ・ 1 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の医療的ケア領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | <p>○喀痰吸引のケアの流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。</p> <p>○経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。</p> <p>○救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。</p> | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できることとし、合格不合格にて評価する。） | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格の他、演習「医療的ケア」を手順通りできることが取得条件 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1.医療的ケア実施の基礎（清潔保持と感染予防含む） | | 3コマ |
| 2.喀痰吸引の基礎的知識・実施手順と留意点 | | 3コマ |
| 3.経管栄養の基礎的知識・実施手順と留意点 | | 3コマ |
| 4.口腔内および鼻腔内の喀痰吸引 | | 1コマ |
| 5.気管カニューレ内部の喀痰吸引 | | 1コマ |
| 6.胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 | | 1コマ |
| 7.半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養 | | 1コマ |
| 8.経鼻経管栄養 | | 1コマ |
| 9.救急蘇生法・AED使用の手順 | | 1コマ |
| 10.振り返り | | 1コマ |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 16コマ |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---|---|-----|
| 科目名 | 介護職員資格講座（介護過程Ⅲ） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 30 コマ ・ 2 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 介護福祉士実務者研修の中の「介護：介護過程」に関する課題・問題を解ける。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ－介護過程－」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1.介護過程の意義と目的 | | 1 |
| 2.介護過程の展開 | | 1 |
| 3.介護過程とチームアプローチ | | 1 |
| 4. 身じたくの介護～整容における介護 口腔ケア | | 1 |
| 5. 移動の介護～安全で的確な移動・移乗の介助の技法 ボディメカニクスについて ②歩行の介助の技法 ③車椅子の介助の技法 ④ベッド上の移動の技法 ⑤体位変換と安楽な体位の保持 | | 3 |
| 6. 食事の介護～安全で的確な食事介助の基本 | | 1 |
| 7. 食事の介護～利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 (感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下、誤嚥・窒息の防止、脱水の予防) | | 1 |
| 8. 排泄の介護～安全で的確な排泄介助の技法 ①トイレ ②ポータブルトイレ ③採尿器、差し込み便器 ④おむつ | | 2 |
| 9. 入浴・清潔保持の介護～状態・状況に応じた全身清拭の演習 | | 1 |
| 10. 入浴・清潔保持の介護～入浴の演習 | | 1 |
| 11. 入浴・清潔保持の介護～シャワー浴の演習 | | 1 |
| 12. 入浴・清潔保持の介護～手浴・足浴の演習 | | 2 |
| 13. 入浴・清潔保持の介護～洗髪介護の演習 | | 2 |
| 14.事例1の展開 | | 3 |
| 15.事例2の展開 | | 3 |
| 16.事例3の展開 | | 3 |
| 17.事例4の展開 | | 3 |
| | 合計 | 30 |
| | 授業単位数 | 2 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---|--|------------|
| 科目名 | ソーシャルワーク演習Ⅲ | |
| 担当教員の実務経験 | 社会福祉協議会勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ | ・ 1 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | <p>個別援助技術の内容や展開過程を、ロールプレイ等を通じて実践的に学ぶ。</p> <p>① 次に掲げる具体的な課題別の相談援助事例(集団に対する相談援助事例を含む。)を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的排除・虐待(児童・高齢者)・家庭内暴力(D.V)・低所得者 ・ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例(権利擁護活動を含む。) <p>② ①に掲げる事例を題材として、以下に掲げる具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング ・効果測定・終結とアフターケア・ケアマネジメントとプロセスと具体的展開 <p>③ ②の実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング ・社会資源の活用・調整・開発 ・ケアマネジメントの事例研究、ケースカンファレンスの実際 | |
| 授業の到達目標 | 相談援助の過程について理解を深め、レポートおよび科目試験合格を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助演習』中央法規。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画(内容) | | コマ数 |
| 社会的排除に関する相談援助(教科書pp.208-213) 社会的排除に陥る背景とマクロ的視点で問題を捉えることについて理解を深める。 | | 1 |
| 就労支援(障害者)に関する相談援助(教科書pp.228-231) 就労支援に必要な計画の策定と総合的なネットワーキングについて学ぶ。 | | 1 |
| 就労支援(母子)に関する相談援助(教科書pp.232-235) 母子世帯をめぐる諸問題、その支援のあるべき方法について学ぶ。 | | 1 |
| 病院からの退院に関する相談援助(教科書pp.236-239) チームアプローチにおけるソーシャルワーカーの役割と退院支援の方法について理解を深める。 | | 1 |
| 家庭内暴力(DV)に関する相談援助(教科書pp.240-243) DVの特質とそれに対応する援助方法、制度について理解を深める。 | | 1 |
| 虐待(高齢者)への相談援助(教科書pp.244-247) 虐待に陥る背景、状況と支援の在り方について理解を深める。 | | 1 |
| 学校でのいじめ問題に関する相談援助(教科書pp.252-258) 教育現場での社会福祉ニーズに把握と支援の方法について学ぶ。 | | 1 |
| 低所得者への相談援助(教科書pp.260-263) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | | 1 |
| ホームレスへの相談援助(教科書pp.264-267) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | | 1 |

| | |
|---|---------|
| 高齢者(認知症)とその家族への相談援助(教科書pp.268-271) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | 1 |
| 高齢者(要介護)とその家族への相談援助(教科書pp.272-275) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | 1 |
| 障害者(身体障害)とその家族への相談援助(教科書pp.276-281) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | 1 |
| 障害者(知的障害)とその家族への相談援助(教科書pp.282-285) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | 1 |
| 児童(児童養護施設入所)とその家族への相談援助(教科書pp.296-299) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | 1 |
| 在住外国人への相談所(教科書pp.312-315) 事例を用いて一連の援助プロセスを意識し、ニーズの把握から支援の在り方について学ぶ。 | 1 |
| | 計 15 |
| | 授業単位数 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|---|-----|
| 科目名 | ソーシャルワーク演習Ⅳ | |
| 担当教員の実務経験 | 社会福祉協議会勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ ・ 1 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 個別・集団の両援助技術と関連援助技術について、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。 | |
| 授業の到達目標 | 様々な事例において、学んだ知識を生かして相談援助の実践ができるようになることを目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（監修）『社会福祉士 相談援助演習』中央法規。 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| ケースマネジメントに関する理解(1)(参考文献pp.22-32) ケースマネジメントの目的と過程について理解する。 | | 1 |
| ケースマネジメントに関する理解(2)(参考文献pp.33-52) ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴、またケースマネジメントとソーシャルワークの関係性について理解する。 | | 1 |
| コーディネーションとネットワーク(1)(参考文献pp.76-85) コーディネーションの目的・意義・方法・技術について理解する。 | | 1 |
| コーディネーションとネットワーク(2)(参考文献pp.86-92) ネットワークの目的・意義・方法・技術について理解する。 | | 1 |
| コーディネーションとネットワーク(3)(参考文献pp.93-98) 地域福祉を推進するためのネットワークのシステム化について理解を深める。 | | 1 |
| 社会資源の活用・調整・開発(1)(参考文献pp.100-104) 社会資源とは何か、その活用の意義と目的について理解する。 | | 1 |
| 社会資源の活用・調整・開発(2)(参考文献pp.105-120) ソーシャルワーク実践における社会資源の活用・開発、システム化について理解を深める。 | | 1 |
| ケースカンファレンス(1)(参考文献pp.206-216) ケースカンファレンスの意義と目的、運営、また展開過程について理解する。 | | 1 |
| ケースカンファレンス(2)(参考文献pp.207-229) ケースカンファレンスを活用した専門技術の普遍化についてその方法を学ぶ。 | | 1 |
| 地域福祉計画の策定に関する相談援助実践(教科書pp.110-113) 事例を用いて地域の課題解決と計画策定に関する知識と技術を学ぶ。 | | 1 |
| 地域におけるサービス提供に関する相談援助実践(教科書pp.114-119) チームアプローチとコーディネーションの方法について学ぶ。 | | 1 |
| 地域におけるネットワークに関する相談援助実践(教科書pp.120-125) ネットワークの手法とその中でのソーシャルワーカーの果たすべき役割、プログラム評価について学ぶ。 | | 1 |
| 地域における権利擁護活動に関する相談援助実践(教科書pp.126-129) 権利擁護の実践に関する制度と技術の活用について学ぶ。 | | 1 |
| 社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助実践(教科書pp.130-133) 社会資源の活用とシステム化、改善・開発に関する技術について理解を深める。 | | 1 |

| | |
|--|----|
| 住民参加と組織化活動に関する相談援助実践(教科書pp.134-140) 住民参加の意義、目標、形態と方法について理解する。 | 1 |
| 計 | 15 |
| 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---------------------------|---|------|
| 科目名 | 国家試験対策（共通科目Ⅱ） | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護施設勤務経験 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 30 コマ | 2 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 社会福祉士としての活動に必要な知識についての総合的な学習を通して、その基礎的理解を深めるとともに、社会資源その他のネットワークを概観する。 | |
| 授業の到達目標 | 福祉職共通の知識に必要となる概念をつくってきた歴史・価値観等を理解できる。また、ソーシャルワークの視点の基礎を理解できる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する | |
| 準備学習・時間外学習 | 各自、授業中の課題を振り返る。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「共通科目 受験ワークブック」 中央法規「福祉士国家試験 過去問解説集」 | |
| 授業上の注意点 | 共通科目「現代社会と福祉」「地域福祉の理論と方法」「福祉行財政と福祉計画」の各科目終了後にもう一度各授業中に行った課題を振り返る。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1.現代社会における福祉制度と福祉政策 | | 2 |
| 2.福祉の原理をめぐる理論と哲学 | | 2 |
| 3.福祉制度の発達過程 | | 2 |
| 4.福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題 | | 2 |
| 5.福祉政策の構成要素 | | 2 |
| 6.福祉政策と関連政策 | | 2 |
| 7.相談援助活動と福祉政策の関係 | | 2 |
| 8.地域福祉の基本的考え方 | | 2 |
| 9.地域福祉の主体と対象 | | 2 |
| 10.地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民 | | 2 |
| 11.地域福祉の推進方法 | | 2 |
| 12.福祉行政の実施体制 | | 2 |
| 13.福祉行財政の動向 | | 2 |
| 14.福祉計画の意義と目的 | | 2 |
| 15.福祉計画の実際 | | 2 |

計 30

授業単位数 2